

プレ更年期以降の健康管理に！
女性はもちろん、男性サポートにも役立つ！

大豆イソフラボン

Soy Isoflavone



中年以降・更年期の
心身サポート



血糖値サポート



骨の健康サポート



男性の排尿トラブルケア



睡眠ケア

大豆イソフラボン

Soy Isoflavone

概 要	大豆はアジアでは古代から食糧とされ、日本においては枝豆やもやしとしても食べられており、そのまま調理する他、豆腐、味噌、醤油など様々な加工食品としても用いられています。アジアでは欧米に比べ、癌による死亡率が低いことが疫学的に明らかになっており、その要因の1つが大豆、特にイソフラボンではないかと考えられ、注目を集めるようになり、研究が進む中で様々な有用性が見い出されました。エストロゲン（女性ホルモン）様作用があることも認められており、中年以降、特に更年期の健康維持効果も期待されています。
基 原	ダイズ <i>Glycine max</i> (マメ科)
使用部位	主に種子が用いられています。
食薬区分	ダイズの種子、種子油、種皮、葉、花、大豆の特殊発酵品は「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）リスト」に掲載
主な成分	genistein、daidzeinなどのイソフラボン
臨床研究	女性ホルモン様作用が注目されていることから、更年期障害やその関連疾患（骨粗鬆症、認知機能障害、肥満、心疾患リスク）に関して数多く報告されています。また、発癌リスクの低減作用も乳癌、卵巣癌、前立腺癌などホルモン依存性の癌だけでなく、大腸癌や肺癌についても、疫学調査の結果も含めて報告されています。その他、糖尿病やその合併症、男性の排尿障害、ドライマウス、睡眠障害など多分野について報告されています。
安全性	食品安全委員会は、2006年に特定保健用食品としての大豆イソフラボンの安全な一日上乗せ摂取量の上限値30mg/日（大豆イソフラボンアグリコン換算値）を設定し、日常の食生活以外での摂取が過剰にならないよう制限を設けました。また、妊婦、授乳婦、乳幼児及び小児は摂取しないことも同時に注意喚起されました。この規定は同年の厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知により、「いわゆる健康食品」も適用対象になっています。 適切に使用すれば、安全と考えられますが、妊婦、授乳婦、乳幼児及び小児は使用しないでください。

製品ラインナップ（食品原料）

製品名	大豆イソフラボン40%
一般名称	大豆抽出物
最終製品での推奨原料表示	例)大豆抽出物
成分または組成	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> (Leguminosae) の胚芽を含水エタノールで抽出して製したエキス末
形 状	エキス末
分 類	食品原料
成分含量	総イソフラボン 40%以上
1日最大摂取量	65mg
包装単位	1kg、5kg

※本資料は、一般消費者の方に対する情報提供を目的としていません。また特定の商品の効果効能をうたうものではありません。

各種製品に関するお問い合わせは…

天然物を科学し、創意工夫する。
 **松浦薬業株式会社**

〒466-0054
 愛知県名古屋市中区円上町24番21号
 E-mail : info@matsuura-gp.co.jp

松浦薬業 原料情報 検索

TEL (052) 883-5151